

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4372500704 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 不動産 | | |
| 事業所名 | グループホーム おとぎの国 | | |
| 所在地 | 熊本県山鹿市鹿本町津袋585 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年 1月28日 | 評価結果市町村報告日 | 平成28年3月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 九州評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市北区四方寄町426-4 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年 2月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の高齢者福祉の拠点である法人の広大な敷地の一角にグループホームは存在する。周囲は整備された庭園があり、南欧風に統一された建物は優雅さと安らぎを与えている。ホームでのケア(生活支援)は、入居者一人一人の性格や個性を把握し、理念に沿って、潜在能力の維持に努め、傾聴、寄り添う姿勢で提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物内部の造りと昼間の自由な面会時間、家族との外出・外泊、利用者皆様の表情等に、安心と安堵感を感じられる家族が多い。又、行事での外出、地元の子供会や地区行事等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り・地域交流伝承事業・GH運営推進会議の皆様等を通じて、知人や地域の皆さんとの繋がりが広がり、この数年維持・交流できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者介護の複合施設の1つであるホームは、南欧風に統一された建物の中でもひととき目を引く。整備された庭や光の庭を中心とした明るい建物は機能的な造りとなっている。継続して地域交流に力を入れ、地域行事には積極的に参加し、本年度も新たな祭りへの誘いがあり参加している。加えて、法人主催の様々なイベントと通じて、地域へのホームの認知度や認知症への啓発へとつながっている。誕生会では入居者の好みの献立を取り入れ、職員と入居者によって一緒に作られる豪華な食事を提供し、一人ひとりを主役にした場面の提供など、寄り添い、個人を大切にしたケアが実践されている。家族の信頼も厚く、職員間のチームワークが良好で、家族だけでなく誰でも訪問しやすい雰囲気である。また、毎年の本調査の受審は法人のバックアップ体制の充実や業務運営の振り返りの機会として取り組む真摯な姿勢が日頃の丁寧なケアにも表れているようである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフは、地域密着型サービスの意義(職員憲章等)をふまえたグループホーム独自の理念と法人の理念、基本方針を念頭におき、利用者一人ひとりの状況とペースに合わせたサービスを提供してきている。 | 法人理念や基本方針と併にホーム独自の理念を掲げ、玄関や共有空間への掲示、運営推進会議の資料に掲載し職員のみならず訪問者、関係者への啓発をしている。申し送り時や会議に振り返りを行い理念に沿ったケアであったかを話し合うようにしている。 | 全職員が理念を理解し、理念を具現化した統一した対応ができるよう話し合いの機会を持たれることが期待されます。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の子供会や地区行等での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛け協力して頂けるようになってきている。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流も、この数年格段の拡がりを見せ維持できている。 | 地域の行事や祭りへの参加や例年行われている子供会との交流、日常的には散歩や外出先で挨拶や会話をしたりと積極的に交流している。法人主催のイベントにも参加し、家族や近隣住民との交流の機会を多く持っている | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元3地区)にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は2ヶ月に1回開催し、地元の運動会や祭り等への参加は、数年前の、この会議での話し合いから生まれている。事業計画や外部評価内容等も報告し意見を求めている。 | ホームの活動状況や日常生活、行事、外部評価等の報告の他、メンバーとの意見交換が行われており、地域行事の情報や行政からの高齢者に関する情報を得られている。メンバーに認知症サポートリーダーを受講した方がボランティアとして参加しており、地域住民の認知症に関する理解が広がっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 毎年、市主催の行事等に参加しており、運営推進会議へは、毎回、市役所の長寿支援課からの出席があっている。市の担当者や市社協からの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 行政の主催する行事や研修等に参加しており、報告事項や書類提出の際などに役所を訪問し、情報交換を行い協力関係を築いている。行政担当者等のホーム訪問もある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員全員が十分に理解している。又、研修や学習会にも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束をしないケアは法人全体の方針であり、職員全員が拘束の弊害を研修や学習会参加で学んでおり、拘束のないケアの実践に努めている。入居者の安全を考慮してやむを得ず拘束と考えられる手段をとる場合は家族の了承を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。 | 家族の訪問時や介護計画の説明時に入居者のホームでの生活の様子や健康状態について話し、何でも意見を表せる雰囲気作りをしている。介護計画の説明時や担当者による便りを送っており、機会は設けている。イベント時や生活の様子の写真を個々にアルバムを作成し、居室に置いている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映している。 | 日頃より職員の意見や要望は言い易い雰囲気になるようにコミュニケーションを図っている。毎月の会議や毎日のミーティング時等に意見を聞くようにしている。出された意見や提案は検討し、改善や運営に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎年、法人での施設内研修会(事例研修発表会)を実施している。県や市主催の研修会やグループホームのブロック研修会等にも参加し、能力アップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣地区のグループホーム等と定期的に講師を招き、問題点や取り組みの方法等を学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきている。又、本人が不安にならないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 取り入れるサービスが自立支援であることを念頭に置きながら、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的に(年4回)写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り・病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | お墓参りや法事、知人宅訪問等は家族の協力を得ながら支援している。又、今年も、以前からの友人や知人、老人会(志々岐と藤井地区の老人会は定期的な面会……)等の訪問があり、これらの方には再度の訪問をお願いし、家族にも伝えている。 | 家族の協力の下、お墓参りや法事などは支援しており、その際には入居者の現在の状況を説明し、注意事項等を伝えている。入居前から利用されている理容室に行かれる方もおられる。家族や馴染みの方、知人などとの関係を大切にし、関係が続くように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 多少は相性や好みの差がでるが、生活や行動を共にすることで、助け合いや共有の関係が出来ており、支援にも努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向を第一に(困難な場合には、表情や反応から検討した本人の思い・家族としての思い等…)考え支援している。 | 各入居者がどう暮らしたいかを日頃の会話や表情から把握するようにしている。1対1でゆっくりした時間に会話をし、何気ない言葉を聞き逃さないようにし、職員間で共有し検討している。困難な方は家族からの情報や反応で推測している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族、知人、前担当ケアマネジャー等からの情報を得て把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。 | 毎月の会議で、入居者の変化や体調変化を報告している。入居者や家族の意向を取り入れ、入居者の担当者が中心となり職員の意見を取り入れながら定期的にモニタリング、介護計画の見直しをし、計画作成担当者が完成させている。介護計画は半年に1回見直し、変化があればその都度見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 受診や目立った変化等がある場合には、個人日誌の赤枠の部分に書き加えるなど、本人の体調・状態の変化に応じた対応を行い、プランの見直しにも活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 法人全体の施設には、多種多様のケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 支援できている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。 | 入居前のかかりつけ医の医療を受診できるようにしており、基本、家族による通院支援としている。必要な情報は提供し、職員と一緒に受診する場合もある。受診後の情報は共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | グループホームへの入居時より相談し、重度化された場合のことも話し合ってきている。「終末期も、できればここでお願いしたい……。」と希望される家族もある。 | 入居時に重度化した場合のホームとしてできることと出来ないことを説明し、家族の希望を聞いている。重度化した場合にはその都度家族やかかりつけ医と相談し、その方にとって最適な方法、家族の希望を優先して対応するようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎年、消防署立ち会いでグループホーム単体での避難訓練を行い、その時には、隣近所にも協力依頼の声かけを行っている。又、法人全体で開催される消防署立ち会いでの避難訓練にも参加し、地元消防団との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。 | 年2回、消防署の指導の下、ホーム独自と、隣接の事業所と合同で火災避難訓練を入居者参加で実施している。避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を実施している。その際には近隣に参加協力依頼をしている。地域の協力体制については運営推進会議でも呼び掛けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けて来ている。 | 入居者の尊厳を大切にし、それぞれに応じた言葉かけや対応をしている。排泄時の声かけはさりげなく行ったり、プライバシーに配慮したケアに努めている。個人情報の保護に関しては管理を徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 誕生日や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時の食事等でも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望により、ご主人と行きつけの理容室に行かれたり、訪問美容(理容)を利用されたりしている。又、特別な日や外出時の化粧や服装も相談しながら行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めているし、準備や片付けなどを一緒にいき、食事と一緒にしている。又、誕生日や特別な日には、本人好みの料理を聞き、メニューに取り入れている。 | 献立は入居者の好みや季節感を取り入れ、入居者と相談しながら作成している。食事の下拵え、準備、片づけ等を一緒に行い、包丁を使う入居者もおられる。誕生日は特別メニューで、本人のリクエストや好みのものを用意し、全員でお祝いしている。職員も同じ食卓で同じ食事を摂っており、楽しく食事が摂れるような雰囲気づくりをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時の洗顔とうがい、食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。スーパーソフト水を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ、早めの声かけと誘導、介助を行っている。全員の方が、昼間は、トイレでの排泄を維持されている。 | 排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し時間や様子を察知して声かけに注意しながら誘導し、トイレで排泄できるようにしている。夜間は時間で声かけしたり、起きられた様子を察知し支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 繊維質の多い食材を使った料理と十分な水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入居者の希望に応じた時間で気持ちよく入浴出来るように支援している。入浴中及びその前後には、見守り・安全確認と体調管理に、特に注意を払っている。 | 入居者の希望を確認し、気持ち良く入浴できるように支援している。拒否の方には時間をおいたり、タイミングを見て声かけ誘導をしている。汚染時には清拭やシャワー浴で対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の運動や入浴・活動的に過ごすこと等で夜間安眠出来るよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用、症状の変化等についても話し合い理解に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者それぞれの得意分野があり、それを活用し、日々の生活の中で張りのある毎日を送られるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。 | 外出の機会は多く、季節毎のドライブや花見、外食、茶摘みなど、日頃は散歩に出かけている。ホームの前で外気浴や日光浴を行い、近隣事業所への訪問も頻繁に行っている。定期的にクラブ参加で出かける入居者もおられる。家族と一緒に知人訪問等出かけられている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 便りや贈り物等へのお礼の他、本人の要望があれば、電話をかけ家族等と話をされている。遠方のご家族からの電話等は特に喜ばれ、毎年、年賀状も出している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建物が吹き抜けで、ニカ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。 | 明るい陽射しが入り、見通しの良い広々と感じられる建物であり、植物が至る場所に置かれ、季節感や自然を感じられる場づくりである。スーパーソフト水を使用し、臭気や殺菌、換気などに留意し、清潔な環境が提供されている。広い回廊は歩行訓練の場所として利用されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ほとんどの部屋が本人と家族の設定であり、使い慣れた馴染みの家具(ダンス、テーブル、椅子)の他、仏壇やテレビ等を持ち込まれている居室もある。面会時等にはお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。 | 入居時に家族に使い慣れた家具や生活用品の持ち込みを依頼している。家族の写真や、電化製品、仏壇など、入居者が落ち着いて生活できるような居室作りがしてある。身体状況に応じて、家具の配置がしてある。家族訪問時は居室でゆっくり過ごされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファで談話したり休息される方々もおられる。 | | |

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームおとぎの国
作成日 平成28年3月20日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--|---|---|------------|
| 1 | 1 | 法人の理念、基本方針とホーム独自の理念、職員憲章等を念頭におき、サービスを提供し、申し送り時や会議で振り返りを行い理念等に沿ったケアであったかを話し合ってきている。理念を具現化した統一した対応（ケア）ができるよう、提供するケアの評価・検討と理念の理解を深め、ケアの質の向上等を図っていきたい。 | ①、全職員が法人とホームの理念、基本方針、職員憲章等を正しく理解できているかを確認する。 ②、尊厳できる素直な気持ちを育み、コミュニケーション取り合っていく。 ③、理念を具現化する。 ④、具現化した統一した対応（ケア）を行っていく。 | ①、全職員で法人とホームの理念、職員憲章等の勉強会をじっくりと行っていく。（2ヶ月） ②、提供するサービスが理念に添い、皆さんが自立し、かつ満足できるケアであるかを話し合い決定していく。（2ヶ月） ③、理念を具現化した統一した対応（ケア）を行う。2ヶ月後、或いは皆さんの状況の変化等に応じて、、対応の検証を行い、ケアの質の改善等を話し合い決定していく。（6ヶ月） | 10ヶ月 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。